

使徒の働き20章27節「神の計画全体の説き明かし」

1A 神のご計画のすべて

1B 長い期間のみことばの教え

1C アジア中への広がり

2C 忍耐と謙遜

3C 余すところない宣教

2B 御国を受け継ぐご計画

1C キリストに集められる万物

2C すべての人への恵み

3C 教会の土台

3B キリストご自身の証し

1C 主ご自身の解き明かし

2C 管理人たる弟子たち

2A 教会からの狼

1B 健全なことば

2B 説き明かしによる悔い改め

3B 聞き心地のよいことば

3A 御国に入る恵み

本文

今朝は、使徒の働き 20 章 27 節にある、パウロのことばから学んでいきたいと思います。黙示録が終わり、再び創世記からの学びに入るのですが、その前に、神のご計画の全体を知ることの大切さを見ていきたいと思います。27 節をお読みします。「使 20:27 **私は神のご計画のすべてを、余すところなくあなたがたに知らせたからです。**」

ここのパウロの言葉は、彼が宣教の旅を終えて、エルサレムに行く旅の中で語った内容です。エペソにいる長老たちに最後のことばを語ろうとしていました。けれども、その旅路を急ぐため、自分がエペソに行くのではなく、ミレトスという港町に彼らを呼び集めました。そして、自分がどこに行くにしても、聖霊が、エルサレムでは、苦しみと鎖が待っているということでした。ですから、これを合わせるのは最後かもしれないということで、この言葉を述べています。

それが、彼がもっとも気にしていたことでした。これをやらなければ、災いが来るとまで思っていた事でしょう。神から与えられた使命であり、召しだと思っていました。それが、「**神のご計画のすべてを、余すところなく**」知らせるということです。

1A 神のご計画のすべて

1B 長い期間のみことばの教え

パウロは、エペソの町に長い間、滞在して、そこでみことばを教えていたということが、このことを可能にしたと言えます。使徒の働き 19 章を見ると、初め、3 カ月は会堂で、神の国について論じました。しかし、ある人々が心を頑なにしておののしつたので、彼らから離れて、ティラノの講堂で論じました。それが二年続いたとあります。合計、3 年間いました。まさに、パウロが、じっくりとみことばを宣べ伝え、教える時が与えられたと言えます。

1C アジア中への広がり

その中で、驚くべき実が結ばれました。19 章 10 節には、「**アジアに住む人々はみな、ユダヤ人もギリシア人も主のことばを聞いた。**」とあります。アジアとは、今のトルコの西側の部分一体です。エペソは、ローマ帝国において重要な中継貿易都市でした。ですから、人の行き来が多く、パウロが根気良く教えていたので、主のことばが、アジアに住む人々にみな、伝えられたというのです。

多くの人が、一つ、自分を楽しませてくれるお話であるかのように、主のことばを聞きます。感情的に落ち着かせる話、あるいは刺激的な話、または、知的欲求を満たすような話を求めます。そうでないと、聞く人々は少なくなります。しかし、着実に広がるのは、しっかりとみことばを教えることです。神のご計画のすべてを伝えるのです。そして、みことばが人々の心に、しっかりと根づきながら広がっていくのです。

2C 忍耐と謙遜

これには、いわゆる面白みがありません。すぐに人間的には、結果は見出されないでしょう。パウロは、自分がいかに忍耐と謙遜を要したかを、語っています。「20:19 **私は、ユダヤ人の陰謀によってこの身に降りかかる数々の試練の中で、謙遜の限りを尽くし、涙とともに主に仕えてきました。**」いろいろな難癖をつけられたり、危害を加えようとする人もいました。その中にあっても、決してやり返すことなく、謙遜と涙をもって主に仕えました。

福音を語り、神のご計画を伝えていく中で、反対者が必ず出てきます。それは、自分自身が神に対する立ち返り、悔い改めが示されていくからです。そして、自分ではなく、神とキリストに信頼しなければいけないことが教えられるからです。自分のやり方、自分の正しさ、自分の欲すること、そういった自分に対することが、すべて否と言われるからです。自分の闇が明るみにだされるからです。けれども、へりくだる者には神の恵みが豊かに注がれます。そうした中で、伝える者は謙遜が試されますし、涙が出てきます。

3C 余すところない宣教

続けて、19 章 20 節に「**益になることは、公衆の前でも家々でも、余すところなくあなたがたに伝**

え、また教えてきました。」余すところなく、ということなのです。私たちは、黙示録の最後の学びで、「黙 22:19 この預言のことばから何かを取り除くなら、神は、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、その者の受ける分を取り除かれる。」

主の語られることを、それが聞く耳に心地よくしないから、語らないという余地を残してしまうことになります。しかし、たとえそれが心に刺されても、余すことなく伝えることを、パウロが使命としていました。それが、私たちが聖書の言葉に対する姿勢です。神のことばは、そのことばのすべてにおいて、初めて成り立ちます。それを勝手に、取り除いたり、あるいは付け足すならば、神のことばの権威を無効にするのであり、あってはなりません。だから、余すところなく語るのです。

2B 御国を受け継ぐご計画

では、パウロがここで抱いている「神のご計画」とは何なのでしょう？エペソの長老たちに語っているのです、エペソ人への手紙を見ると、その彼の意味していることが見えてきます。

1C キリストに集められる万物

「エペ 1:9-11 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。その奥義とは、キリストにあって神があらかじめお立てになったみむねにしたがい、10 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることです。11 またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。」

神のご計画とは、神の国のことであることがわかります。すべてのものが、神の支配に入っていないという状態が、アダムが罪を犯した時以来、続いています。それがいかに、神の権威の下に戻るのか？が神のご計画であり、キリストにあって神はそれを実行されます。そして最終的に、キリストのあってすべてが集められた神の国を、人々に受け継がせるというところに至ります。

2C すべての人への恵み

もう一つ、ご計画について説明している箇所が、エペソ3章8-11節を読みます。「3:8-11 すべての聖徒たちのうちで最も小さな私に、この恵みが与えられたのは、キリストの測り知れない富を福音として異邦人に宣べ伝えるためであり、9 また、万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現がどのようなものなのかを、すべての人に明らかにするためです。10 これは、今、天上にある支配と権威に、教会を通して神のきわめて豊かな知恵が知らされるためであり、11 私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた、永遠のご計画によるものです。」

すべてのものが、キリストにあって一つに集められるのですが、この神の国を、すべての人に恵みによって与えられるというのが、神のご計画の中にあるようです。ユダヤ人だけでなく、異邦人

も含めて、神の国を受け継ぎます。これが福音ですね。ユダヤ人だけでなく、異邦人も。そして、自由人だけでなく、奴隷も。男だけでなく女もです。どんな小さき者も、主にあっては偉大な者と恵みよってされます。地上においてどんな偉大な者も、天の御国における小さき者のほうが偉大だということです。この恵みが明らかにされるのに、神は奥義によって、多くの時間を費やしました。

3C 教会の土台

そして、この神のご計画が明らかにされ、天における権威に対しても明らかにされるのは、教会を通してなのということなのです。教会は、使徒たちと預言者たちのことばで成り立っていることを、2章20節で教えています。「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。」キリストを要石として、使徒たちや預言者たちという土台によって、教会が建てられているのです。

ですから、私たちが、神のご計画のすべてを余すところなく伝えられるというのは、まさに神のみどころであり、使命だと言ってもよいでしょう。

3B キリストご自身の証し

これは、使徒たちがキリストの言われたことに付け足して、主イエスが語られているところに付け足して行ったものではありません。キリストご自身が、預言者たちによって啓示されたご計画を余すところなく解き明かされました。

1C 主ご自身の解き明かし

ご自身が復活した後に、エルサレムを離れてエマオの村に向かっていた弟子たちと、主は共に歩かれました。そして、彼らの信じない鈍い心を責められました。こう言われています。「ルカ24:25-27 そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。26 キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったではありませんか。」27 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」

主が責められたのは、彼らが預言者たちの言っていることを信じていなかったことではありませんでした。信じていたのです。ところが、すべてを信じていなかったのです。ここが問題ですね。すべてを信じていなかったので、取り除いていた部分があったので、ものすごく大事な部分、すなわち、キリストが苦しみを受けられて、それから栄光に入ることについては見失っていたのです。

それで、主は、モーセやすべての預言者たちから始めてと言っています。これは、モーセ五書とも呼ばれる律法のこと。そして預言書です。また、歴史書なども見たことでしょう。初めから終わりまで、聖書に書かれているすべてから、ご自身について書いてあることを説き明かされました。

そして、主は、はっきりと聖書には、ご自分のことが証しされていると語りました。「ヨハ 5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。」ここの聖書はもちろん、旧約聖書のことです。クリスチャンの中でさえ、イエスについては福音書にしか書かれておらず、旧約聖書は昔の人々の信仰の話だと分けて考えています。とんでもないことです。創世記から黙示録まで、イエスについて証しされ、イエスの中に永遠のいのちがあります。

2C 管理人たる弟子たち

主は、神のご計画の中にあるその知恵の豊かさについて、あなたがたは管理者であることを語られました。「マタ 13:52 こういうわけで、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物と古い物を取り出す、一家の主人のようです。」私たち教師は、何か神のみことばについて、それを力強くしようとか、新しい息を吹き込まなければいけないとか、訳の分からないことを考えてしまう誘惑があります。すでに、すべて神の知恵の宝が、用意されているのです。それを、忠実に管理するのが私たちの役目です。パウロは、「Ⅰコリ 4:1-2 人は私たちをキリストのしもべ、神の奥義の管理者と考えるべきです。その場合、管理者に要求されることは、忠実だと認められることです。」と言いました。

2A 教会からの狼

このようにして、パウロはエペソの長老たち、監督また牧者と言ってもよいでしょう、彼らに対して、預言的に以下の警告をしました。「20:29-30 私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。また、あなたがた自身の中からも、いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。」

これは、かなり重い言葉ですね。狼が群れを荒らしに来るのは、まだよいかもしれません。なぜなら、外部から内部を守れるからです。けれども、今、パウロの言葉を聞いている長老たちの中からも、いろいろと曲がったことを語って、自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるのです

キリストの福音を忠実に伝える者は、自分自身に引き込まず、キリストに導こうとします。ところが不思議なことに、偽教師たちは、今、聞いている事では足りない。あなたは、これこれのことが必要だとして、自分自身に引き込もうとします。パウロが、ユダヤ主義者らに対して、ガラテヤ人たちにこのように言いました。「ガラ 4:17 あの人たちはあなたがたに対して熱心ですが、それは善意からではありません。彼らはあなたがたを私から引き離して、自分たちに熱心にならせようとしているのです。」福音をそのまま伝えれば、ご計画を余すところなく語れば、自分のところではなく、キリストご自身に人々は引き寄せられます。

1B 健全なことば

パウロは、牧者であり、監督であるテモテに対して、いろいろな指導をしました。その一つが、健全なことばを語るということです。「Ⅱテモ 1:13 あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛のうちに、私から聞いた健全なことばを手本にきなさい。」

健全さとは、どういったところから来るのでしょうか？これは、心身のことを考えてもよいでしょう。しっかりとバランスを取るということかもしれません。バランスの取れた栄養ある食事はよくわかりますね。そして総合して、適度な運動をする。睡眠も寝すぎることもなく、けれども十分に取る。ちょうど、自分が自転車に乗って、全体のバランスを取りながら前進するように、中核になっているものをしっかりと保って、バランスを取っていくことであります。そして、ここに、キリスト・イエスにある信仰と愛のうちに、とあるように、キリストこそがバランスの中核であります。

それで、テモテの第一の手紙では、聖書の朗読と教えをパウロが勧めています。「4:13,15,16 私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。・・15 これらのことに心を砕き、ひたすら励みなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。16 自分自身にも、教えることにも、よく気をつけなさい。働きをあくまでも続けなさい。そうすれば、自分自身と、あなたの教えを聞く人たちとを、救うことになるのです。」

聖書の朗読と勧めと教えに専念し、それに心を砕き、ひたすら励みなさいと言っています。時に、こんなことを毎回、同じことをやっていていいのか？と思うかもしれません。もっと効果的な伝道がないのか？効果的な教会の運営があるのではないのか？とか。けれども、ひたすら励むのです。そうすれば、着実に進歩します。

それから、自分自身と教えることに気をつけます。そうです、聖書を教える時に、その人が聖書から神にもっとも教えられます。自分自身を見つめざるをえないのです。結局は、自分が主にあって、正しい霊を持っているのが大事です。自分自身がどうなのか？を知って、それで初めて、教えることができます。これが、健全さを保つ方法です。そして、教えている内容にも気をつけます。

そうすることによって、ちょうど同じ船に乗っていて、案内している人と乗っている人たちのように、自分自身も聞いている人たちも救うことになります。あらゆる罠や誘惑、惑わしや偽りから、自分たちを救うことになるのです。何か、偽りの教えが間違っていることを延々と教える必要はないのです。救われるためには、前進あるのみです。右に左にそれないことです。そうすれば、いろいろな罠、惑わし、誘惑、混乱などを避けて、免れることができ、自分たちを救うことができます。

2B 説き明かしによる悔い改め

聖書のことばを、まっすぐに説き明かすと、そこには悔い改めが起こり、主への信頼が生まれま

す。そして、主にある喜びが沸き起こります。ネヘミヤ記には、律法を解き明かす場面が出てきます。「ネヘ 8:7-8 ヨシュア、バニ、シェレベヤ、ヤミン、アクブ、シャベタイ、ホディヤ、マアセヤ、ケリタ、アザルヤ、エホザバデ、ハナン、ペラヤなどレビ人たちは、民に律法を解き明かした。その間、民はその場に立っていた。8 彼らが神のみおしえの書を読み、その意味を明快に示したので、民は読まれたことを理解した。」しっかりと、み教えの書を読み、その意味を明快に示したので、それを彼らが理解したのです。

すると、民には罪の自覚が与えられました。「ネヘ 8:9 総督であるネヘミヤと、祭司であり学者であるエズラと、民に解き明かすレビ人たちは、民全体に向かって言った。「今日は、あなたがたの神、【主】にとって聖なる日である。悲しんではならない。泣いてはならない。」民が律法のことばを聞いたときに、みな泣いていたからである。」みことばの解き明かしによって、初めて、神のみこころを知ります。それによって、初めて自分が神の目に罪人であることを悟ります。聖霊が、みことばによって、罪の自覚を与えられます。

それで、総督ネヘミヤと学者エズラは励ましました。「ネヘ 8:10-12 さらに、彼は彼らに言った。「行って、ごちそうを食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった人には食べ物を贈りなさい。今日は、私たちの主にとって聖なる日である。悲しんではならない。【主】を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ。」11 レビ人たちも、民全体を静めながら言った。「静まりなさい。今日は聖なる日だから。悲しんではならない。」12 こうして、民はみな帰って行き、食べたり飲んだり、ごちそうを贈ったりして、大いに喜んだ。教えられたことを理解したからである。」

なぜなら、喜びが出てきたのか？それは罪を自覚し、それを捨てて、罪の赦しがあることを知ったからです。その神の恵みの中にある喜びは、何にも代えがたいものです。罪の楽しみはむなしです。その瞬間は楽しいですが、すぐにしぼんでしまいます。罪の悔い改めがあつてこそ、真の喜び、救いの喜びがあります。

3B 聞き心地のよいことば

そして、先ほど話しましたように、その罪の自覚、悔い改めを人は拒みます。やみを愛しているからです。そのために、みことばの真理から離れて、聞こえのよいところに行こうとします。パウロがテモテに励ましました。「Ⅱテモ 4:2-5 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。3 というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、4 真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。5 けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。」

語るのが、良い時だけでなく悪い時もあります。人々は良い時には集まって来るものです。悪い時に、集まってきません。けれども、良い時だけでなく悪い時にも、しっかり伝えるのです。それから、自分の好みに従って教師を集める日も来ます。今は、場所を変えなくても、自宅でいろいろな教師を見ます。インターネットですね。ある教会は、次々と牧師や教師を変えていきました。自分たちにとって気に入らない人はやめさせて、他の良い人を雇います。

3A 御国に入る恵み

そしてパウロは、自分が去った後に曲がったことを言う者たちが現れることを知っていました。けれども、こう言っています。「20:32 今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」

主は、みことばによって、人々を成長させ、御国を受け継がせることができます。神のご計画を余すところなくすべて伝える中で、人々は成長して、みことばそのものが御国を豊かに受け継がせるのです。みことばは、ちょうど種のようなものです。種が良い地に落ちれば、育ちます。そして必ず実を結ぶのです。イザヤは預言しました。「55:11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」

ですから、私たちの教会も、神のご計画の全体を余すところなく伝え聞くことに献身します。創世記から始めます。そして一つ一つ、みことばを見ていきます。そして、豊かに御国を受け継ぐのです。

午後礼拝は、出エジプト 19 章

主に聞き従う

アブラハムへの約束

祭司の王国

アダムへの約束

イスラエルの証し